四方の壁 巧みに返球

スペイン発祥のラケット競技で、テニスとスカッシュを融合させたような「パデル」。国内でも人気が高まっているスポーツと聞き、生まれて初めてのパデルを体験しようと、コートに向かった。え、スマッシュが決まったのにラリーが続いてる――!?

（西井遼）

大阪市東淀川区の「くにじまテニスコート」の一角。四方が透明の強化ガラスや金網の「壁」で囲まれた専用コート（縦20㍍、横10㍍）で、男女4人がダブルスでラリーを続けている。時折、球が勢いよく2人の間を抜くが、「ドン」と後方の壁に当たった瞬間、「よし」「オーケー」と声を掛け合い、その球を打ち返す。パデルを始めて半年の主婦三宅京子さんは「抜かれて終わりじゃないのが楽しい。力勝負じゃないんです」と魅力を語る。

対角にサーブを入れ、相手はサービスコートで1バウンドした球を打ち返す。テニスと似ているが、ラケットは短く小ぶりで、ミート面にガットはなく板状。体の横を打ち抜かれても、後方の壁から跳ね返ってきた球が宙に浮いている間に返せばプレーは続く。振り返って球を迎え入れ、体を反転させて打ち返す。ネットを背にしたままリバウンドボールを壁に強く打ち込み、反射を利用して返球することも可能だ。

コーチを務めるスペイン人のアルベルト・フェルナンデスさんに特訓を申し出た。ラケットの握り方に始まり、フォア、バック、壁の反射待ち――。ラケット競技の経験がなかったが、1時間もすれば不思議と打ち返すことができた。板状のラケットゆえ、球との接触面がラケットの中心から多少ズレてもそれなりの返球ができるからだ。

いざ、試合形式の実戦に挑んだ。なるほど面白い。強い球が来ても、落ち着いて後ろを向けば、初心者でも十分にラリーを続けられる。さらに、テニスの半分ほどの狭いコートを2人で守る分、足腰の負担も大きくなく、年齢性別を問わないスポーツと言える。

一方、上級者は、壁との距離感や反射具合を体で覚えており、攻守両面で壁を戦略の幅にすることができる。主婦上原裕香さんは、2年前にパデルに出会い、その魅力にとりつかれた。今や指導者の資格まで取得した。「老若男女、誰にでも勝てたり負けたりするのが面白い」という。

「アディダスパデル」（スペイン）の代理店「清立商工」（大阪市）によると、欧州を中心に世界的に広がりを見せており、競技発祥の国、スペインでは、競技人口が400万人を超えた。アルベルトさんは「プレーヤー同士の距離感が近く、自然と関係も密になる」と話す。人間関係の構築にもプラスになるというわけだ。

同社の三輪博彦さんは3年前にスペインを訪れ、70歳代の女性らがパデルに励む姿を見た。女性らは「仲間と楽しめるし、目や頭も使う」と話したという。三輪さんは「生涯スポーツとしての可能性は、フットサルをも超える」と確信している。

パデルを体験する西井記者＝横山就平撮影

パデルのコーチを務めるアルベルトさん

右 強化ガラスで囲まれたパデルのコート
左 パデルのラケット

パデルの主なルール

ポイントのカウント	テニスと同じ（例15―0、15―30など）
セット数	3セット制で2セット先取
サーブ	ペアの一方のプレーヤーが打つ。サーブは2本まで
	ボールを1バウンドさせてからアンダーハンドで相手対角側のサービスコートに入れる
	サーブがネットを越え、サービスコートで1バウンドすれば、レシーバーは打ち返すことができる
プレーの相違点	前衛と後衛の区別がない。横のラインを統一するのが原則
壁のリバウンド	ボールが1バウンドした後にガラスや金網に当たった際、宙に浮いている間は打ち返すことができる
	ガラスや壁にぶつけて相手コートに返すのもOK

取材ノート

「清立商工」によると、国内のパデルコートは増え続けており、人気の高まりを反映している。近畿では「くにじま」のほか、京都、奈良両市内にも新たに作られており、裾野が広がっている。三輪さんは「土地の狭い日本には必ず合う。温泉旅館などでなじみ深い卓球台のように、リゾートホテルにコートが整備されたり、ボウリングやカラオケのように、娯楽の選択肢になったりする日を夢見ています」と話す。

京都・奈良市でも

日誌から

スペインやアルゼンチンで人気を誇るパデル。スペインでは1974年の発祥から30年後の2004年には競技人口が76万人に増え、今では400万人を超えるという。プロスポーツとなり、ワールドツアーも開かれるほか、他競技のプロ選手も愛好家が多い。サッカーの世界的スター、リオネル・メッシもプレーし、スペイン出身でテニスのトッププレーヤー、ラファエル・ナダルは地元で大会を主催するという。アルベルトさんは「仲間との親睦を深められる上、けがの危険が少ないのも魅力なのでは」と指摘している。

特命のご依頼、ご感想は〒530・8551 読売新聞大阪本社「特命記者がゆく」係か、o-mission@yomiuri.comへ。